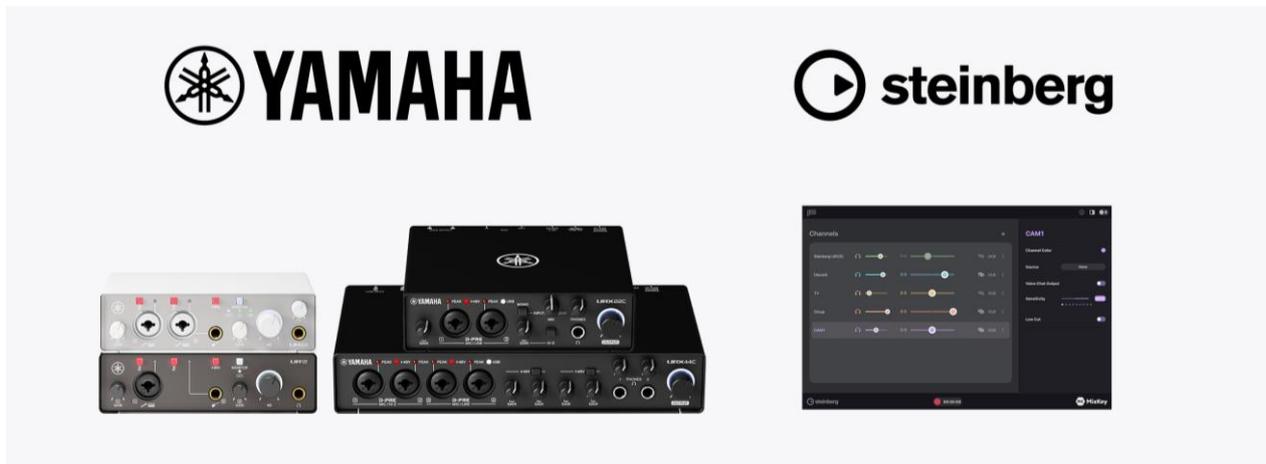


スタインバーグのハードウェア製品事業をヤマハへ移管**- 4モデルをヤマハブランドで再発売。スタインバーグはソフトウェア製品に専念 -**

ヤマハ株式会社（以下、当社）は、当社100%子会社である Steinberg Media Technologies GmbH（ドイツハンブルク、以下、スタインバーグ）が担ってきたハードウェア製品事業を当社に移管することといたしました。これにより、スタインバーグのハードウェア製品の企画・開発機能を当社が継承し、今後はヤマハブランドで展開します。一方、スタインバーグはソフトウェアの開発と販売に専念します。

今後は、当社が企画開発するハードウェアとスタインバーグの開発するソフトウェアのシナジーを高め、洗練された音楽制作の体験をユーザーに提供してまいります。



スタインバーグは2005年に当社グループに加わり、2008年には共同開発による最初のハードウェア製品としてDSP内蔵FireWireオーディオインターフェース「MR816」やDAWソフトウェア専用コントローラー「CC121」を発売し、その使いやすさから幅広いユーザーから好評をいただきました。その後も、USBオーディオインターフェース「UR」「UR-C」「UR-RT」や、軽量・コンパクトなエントリーモデル「IX0（イグゾ）」などのシリーズを通じ、プロのスタジオから初めて音楽制作を行うクリエイターまで、一貫して高い信頼性と品質を提供し続けています。

今回の事業移管により、スタインバーグは「Cubase（キューベース）」や「Nuendo（ヌエンド）」などのソフトウェア開発に専念します。また、スタインバーグブランドで展開してきた「IX012」「IX022」「UR22C」「UR44C」は、それぞれ「UR12MK3」「UR22MK3」「URX22C」「URX44C」としてヤマハブランドにリブランドし、同仕様にて発売します。これら4モデル以外のスタインバーグブランドのハードウェア製品は段階的に販売を終了する予定ですが、当面の間は製品サポートとドライバー提供を継続します。

当社とスタインバーグは、ハードウェア／ソフトウェア開発の役割分担を明確化し、連携を取りながら両社の専門性とリソースを最大限に活用することで、信頼性・創造性・操作性に優れた製品とサービスを提供してまいります。

*文中の商品名、社名等は当社や各社の商標または登録商標です。

*掲載情報はすべて発表日現在のものです。発表日以降に変更となる可能性もありますので予めご了承ください。

■ 報道関係の方のお問い合わせ先

ヤマハ株式会社 コーポレート・コミュニケーション部 担当：佐藤 圭 TEL. 050-3148-8660
ウェブサイト https://www.yamaha.com/ja/news_release/